

## 評点基準等

事業評価の評点等は、次のとおり定めています。

### ○カテゴリー1～7

各評価項目に属する標準項目について、実施が確認できたもの（満たしているもの）を○、実施が確認できないもの（満たしていないもの）を●で表し、それらを並べたものが評点です。

例 評価項目に属する標準項目が4つの場合

評点	評点基準
○○○○	標準項目をすべて満たしている状態
○○○●	標準項目を1つ満たしていない状態
○○●●	標準項目を2つ満たしていない状態
○●●●	標準項目を3つ満たしていない状態
●●●●	標準項目をすべて満たしていない状態

なお、標準項目を確認できた（満たしている）とすることができるのは、次のすべてを充足した場合です。

- ア 事業者が当該事項を実施していること
- イ その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること
- ウ その根拠が示せること

### ○カテゴリー8

カテゴリー8は、評点を設定していませんが、各評価項目ごとに、事業者の取り組み状況及び活動成果に応じて、次のいずれかの標語を表すことにしています。

- ・改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- ・改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- ・改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

## カテゴリ1

### リーダーシップと意思決定

#### サブカテゴリ1

認定こども園として目指していることの実現に向けて一丸となっている

#### 評価項目1

園が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している

評点（0000）

評価	標準項目
あり	1. 園が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している
あり	2. 園が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取組を行っている
あり	3. 園が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、保護者の理解が深まるような取組を行っている
あり	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、園が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を思い起こすことができる取組を行っている（会議中に確認できるなど）

#### 評価項目2

管理者（認定こども園長・保育園長・幼稚園長）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、こども園をリードしている

評点（00）

評価	標準項目
あり	1. 管理者は、自らの役割と責任を職員に伝えている
あり	2. 管理者は、自らの役割と責任に基づいて行動している

#### 評価項目3

重要な案件について、管理者は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点（000）

評価	標準項目
あり	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
あり	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
あり	3. 保護者に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている

### カテゴリ1の講評

園の基本理念や基本方針、そして4つのやくそくは、「入園のしおり」やパンフレット、ホームページに明示しています。園内でも玄関や保育室に文書で掲示しています。職員には、年度始めの職員会議で確認させています。保護者には、入園説明会のときに「入園のしおり」を使って説明しています。事案決定の際には、決定事項が園の理念や方針に沿っているか確認しています。例えば、小学校の校庭1周を子どもに走らせる計画を立てました。しかし、幼児の段階でそこまでする必要はあるか、原点に戻って振り返り、とりやめることにしました。

職員各自の役割については、職員業務分担表で示し、年度当初の職員会議で職員に伝えています。こども園の園長は、施設全体、キンダーコース（幼稚園部門）とナーサリーコース（保育園部門）の運営・管理に責任をもって取り組んでいます。保育園の園長は、こども園園長を補佐しています。対外的な役割については、こども園の園長は幼稚園の園長会に出席しています。保育園の園長は保育園園長会に出席すると同時に、区との連絡・交渉も担当しています。また、地域の保育ネットには、保育園の園長が出席しています。

重要案件の決定手順は、「問題解決について」で明示しています。園内のことは、職員会議で検討し決めています。しかし、高額な物品の購入については、本部に報告し決定します。決定事項は、職員には職員会議で、保護者には園だよりや保護者会で伝えています。事例としては、近隣の家庭から園の騒音に対する苦情が寄せられました。さっそく保育園園長とこども園園長とが検討し、職員会議でできるだけ騒音を出さないことを決定しました。決定事項は、緊急保護者会で保護者に伝達しました。

## カテゴリ2 経営における社会的責任

### サブカテゴリ1

社会人・福祉サービス事業者・教育機関として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

#### 評価項目1

社会人・福祉サービス・幼児教育に従事する者として守るべき法（児童福祉法、学校教育法、消防法、学校保健法、労働基準法等）・規範・倫理などを周知している

評点（〇〇）

評価	標準項目
あり	1. 福祉サービス・幼児教育に従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している
あり	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる

#### 評価項目2

第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点（〇〇）

評価	標準項目
あり	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
あり	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法（園便り・会報など）で地域社会に園に関する情報を開示している

### サブカテゴリ2

地域の福祉に役立つ取組を行っている

#### 評価項目1

園の機能や幼児教育・福祉の専門性をいかした取組がある

評点（〇〇）

評価	標準項目
あり	1. 園の機能や専門性は、子どもや保護者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）
あり	2. 地域の人や関係機関を対象に、園の機能や専門性をいかした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている

#### 評価項目2

地域の関係機関との連携を図っている

評点（〇〇）

評価	標準項目
あり	1. 地域の関係機関のネットワーク（事業者連絡会など）に参画している
あり	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている

### カテゴリ2の講評

福祉サービス・幼児教育に従事する者として、守るべき事柄については、「職員の心得」に明示しています。この「職員の心得」を、全職員に配付して職員の周知を図っています。これらの事項は、仕事に取り組むうえで精神的な基盤となりますので、勉強会を開いてきちんと職員に伝えることを望みます。前回の第三者評価の結果は、園のホームページで公開しています。今回の受審結果も、園や区のホームページで公開する予定です。ホームページを閲覧できない保護者には、園だよりに掲載したり、報告書を玄関に置いたりして知らせたいかがでしょう。

園のパンフレットを区や福祉保健センターに置いて、園の情報開示をしています。子育て支援活動のチラシは、園の玄関に置いてありますし、地域の子育て支援ネットワークでも配付できるようにしています。園の子育て支援活動は、園庭開放や人形劇の公演、絵本の貸出しなどを実施しています。また、体育講師による未就園児の体育あそびを実施したり、音楽会を開催したりして地域の方々に喜ばれています。

地域の児童館や学童保育、保育園で組織している子育て支援ネットワークに参画しています。このネットワークでは、各施設でどんな支援活動をしているか情報交換したり、各施設で連携して新しい支援活動ができないか検討しています。地区の保育ママや認証保育所、公立保育所で組織する保育ネットでは、福祉活動についてテーマごとにグループ分けをして話し合っています。また、区の発達障害相談・療育センターや総合福祉センターとも連携して指導を受けています。

### カテゴリ3

## 保護者の意向や地域・事業環境の把握と活用及び中長期目標と計画

### サブカテゴリ1

保護者の意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

#### 評価項目1

保護者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）

評点（〇〇）

評価	標準項目
あり	1. 苦情解決制度を利用できることや園以外の相談先（第三者委員）を遠慮なく利用できるしくみについて、保護者に伝えている
あり	2. 保護者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる

#### 評価項目2

保護者の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点（〇〇〇）

評価	標準項目
あり	1. 保護者アンケートなど、園側からの働きかけにより保護者の意向を把握することに取り組んでいる
あり	2. 園が把握している保護者の意向を取りまとめ、保護者から見たサービスの現状・問題を把握している
あり	3. 保護者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる

#### 評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目
あり	1. 地域の幼児教育・保育や子育て支援に関するニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる
あり	2. 幼児教育・保育事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる
あり	3. 園としての今後のあり方の参考になるように、地域の幼児教育・保育や子育て支援に関するニーズや幼児教育・保育事業全体の動向を整理・分析している

## サブカテゴリ2

こども園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定している

### 評価項目1

外部環境、内部環境を踏まえて、こども園の中長期計画を作成している

評点 (0000)

評価	標準項目
あり	1. 事業運営に必要な情報を収集・分析し、中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成している
あり	2. 次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たなしくみを常に検討している
あり	3. 重要な情報は主要な職員間で共有するため会議等で議論し、重点改善課題として設定されている
あり	4. 運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしている

### カテゴリ3の講評

園の苦情解決制度は、「入園のしおり」に明記するとともに、玄関に文書を掲示し保護者に周知しています。また、玄関に「ご意見箱」も設置し、匿名で保護者の意見や苦情も受け付けています。近ごろの保護者からの問い合わせは、放射能のことと野菜の産地についてが多くなっています。保護者の意向の把握については、保護者アンケートで行っています。運動会や発表会のときには、保護者アンケートを行い、次年度の参考にしています。キンダー（幼稚園部門）の入園の際には、「預かり保育」についての希望を保護者アンケートで把握しました。

園舎の老朽化が進んでいますので、園舎の修繕が目下の目標です。区と相談のうえ、修繕計画を立てていきたいと考えています。園の中長期の計画は、子どもの小学校への円滑な移行を果たすための教育プログラムの確立です。そのために近隣の小学校と連携して取り組んでいきたいと計画を立てています。当園の教育カリキュラムの確立のために、外部のアドバイザーを招き、月1回指導を受けています。また、職員のやる気向上を図るための待遇の改善についても、園の首脳陣で検討しています。

幼児教育や保育、子育て支援に関する地域の要望は、園庭開放に参加した保護者から口頭で聞いています。また、認定こども園の今後や幼保一体化などの将来の動向については、区の幼稚園園長会や保育園園長会で情報交換しています。有識者のホームページも参考にしています。当園の今後のあり方については、区や地域の関係機関と連携し情報収集をしています。収集した情報は、ファイルにまとめて検討材料にしています。

## カテゴリ4 安全管理

### サブカテゴリ1

子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

#### 評価項目1

子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる  
※事故、感染症の発生時などの対応、防犯・防火等

評点 (000000)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や施設内の役割分担を明示している
あり	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
あり	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、保護者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
あり	4. 地震などの自然災害に対する防災対策を施すなど、施設・設備を安全で適切な状態にしている
あり	5. 不審者、外部からの侵入に対する対策がとられている
あり	6. 急な病気や感染症に対しての取組の手順が明示されている

#### カテゴリ4の講評

子どもの安全安心を図るため、火災や地震、事故などの災害に備えた園内の役割分担表を定めています。しかし、園だけの備えでは限界がありますので、関係機関と連携しています。消防署とは、月1回の避難訓練で指導を受けています。また煙中避難訓練や起震車体験もさせていただきました。警察署とは、交通安全の指導を受けたり、警察署の見学をさせてもらったりし、警察の仕事を知らせてもらいました。保健所とは、行事のときに園庭で調理をしているか意見を聞いています。また、区の栄養士には食材を園に搬入する場所について指導を受けました。

発生した事故については、事故報告書を作成し原因を追究して再発防止に努めています。また、園では遊具での事故が発生しないように、事前に遊具の点検をする「遊具の点検シート」を作成しています。しかし、遊具に限らず、保育室、廊下、園庭など、園の全ての場所についても安全を確認するためのヒヤリハットチェック表を作成されてはいかがでしょうか。チェック表を作れば、何が危険か、どこが危険かわかります。事故が起きたときには、報告書を園内に回覧するとともに口頭で予防策を話し職員に周知を図ります。

園では、さまざまな場面を想定して、フローチャートにした緊急事態対応表を作成しています。「子どもがいなくなったとき」「侵入者、不審者」「近隣で事故が起きたとき」「火災が発生したとき」などの対応の手順がわかりやすく図式化されています。保護者が子どもの送迎で園に入るときは、IDカードをつけてもらっています。また、来訪者には台帳に記帳をお願いしています。感染症については、流行時には園の様子を保護者に伝えています。また、感染症によっては治癒後の登園の際には、医師の診断書が必要なものもあることを保護者に伝えています。

## カテゴリ5

### 職員と組織の能力向上

#### サブカテゴリ1

こども園が目指していることを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

##### 評価項目1

園にとって必要な人材構成にしている

評点 (●○○)

評価	標準項目
なし	1. 園の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している
あり	2. 園が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
あり	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる

##### 評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点 (○○●○○)

評価	標準項目
あり	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成（研修）計画を策定している
なし	3. 個人別の育成（研修）計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
あり	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
あり	5. 職員の研修成果を確認し（研修時・研修直後・研修数ヶ月後など）、研修が本人の育成に役立ったかを確認している

#### サブカテゴリ2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

##### 評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点 (○○○)

評価	標準項目
あり	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
あり	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
あり	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる

**評価項目2**

職員一人ひとりのやる気向上に取り組んでいる

評点 (0000)

評価	標準項目
あり	1. 職員一人ひとりの取組を評価し、課題の発見や目標設定、研修や自己研鑽の計画に結びつけるなど、総合的な人材育成の視点を持ったくふうを行っている
あり	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる
あり	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
あり	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる

**評価項目3**

円滑なコミュニケーションを図り、組織として質の向上に取り組んでいる

評点 (000)

評価	標準項目
あり	1. 定期的な職員会議などを通して、話し合い、評価・反省を行い、次の保育に活かす体制がある
あり	2. 自分の保育を他の職員に見てもらい、互いに検討しあう機会やしくみをつくっている
あり	3. 自園のテーマや重点項目等を決め、継続的に研究を行っている

**カテゴリ5の講評**

現在、園には人事考課表がないので、社会保険労務士の方に当園に合った人事考課表の作成をお願いしています。職員の求人については、ハローワークに求人を出しています。また派遣会社にも紹介をお願いすることもあります。基本的な試験は、面接と実技、ピアノです。職員の職場での組み合わせは、ベテランと経験の浅い職員とを組み合わせ、現場で職場内指導をしやすくしています。

園長と職員の面談は、年2回行っています。その場で職員に研修受講の希望を聞いていますが、園長がその職員の能力に応じて研修を決めることもあります。このように職員の育成については、園長が職員と面談しながら取り組んでいます。また個人別の育成計画書はありません。今後、作成する方向で検討しています。職員の研修受講にあたっては、職員の勤務シフトを変更することで、どの職員も参加できるようにしています。研修受講は報告書を提出し、職員会議の場で発表して成果の共有をしています。

職員のがんばりには、ほめるなどの対応をして職員のやる気の向上につなげています。園長は、職員に失敗を恐れずに、何でも積極的にチャレンジするように指導しています。今年度は、ある職員の保育の取り組みを他の職員が見学し、長所・短所を園長や主任に報告する公開保育を実施しました。その後、職員に情報をバックして、長所を中心に職員の気づかなくなったや点を確認させています。保育については、専門のアドバイザーから指導を受けています。



## カテゴリー6

### サービス提供のプロセス共通評価項目

#### サブカテゴリ1

サービス情報の提供

#### 評価項目1

保護者等に対してサービスの情報を提供している

評点 (000)

評価	標準項目
あり	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
あり	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
あり	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している

#### サブカテゴリ1の講評

当園でお知らせしている各種情報（園便り、クラス便り、保健便り、給食便りなど）は、できるだけわかりやすい表現をするということを念頭に作成しています。園便りは園長が、その月の子どもたちの様子や子育てで大事にしてほしいことを記述し、主任が必要なお知らせ事項を記述しています。クラス便りは担任が、保健便りは看護師が、給食便りは栄養士が毎月担当しています。なお、園便りはB4版の大きい用紙を使用して見やすくなっています。クラス便りは写真を活用するなど視覚的になっています。

東京都の福祉保健局のホームページで「認定子ども園を利用したいとお考えの方に」をクリックすると、「認定子ども園施設概要」が出ます。さらにクリックすると当園の情報が詳しく掲載されています。また、当園の情報を区に書類で提出していますので、区のホームページにも掲載されています。そのほか区内のNPO法人が行っている子育て支援のネットワークの情報紙にも掲載されています。なお、子育て支援センターにも当園のパンフを持参しています。

見学希望者は基本的には随時受け付けています。見学希望者には主任が対応するようにしています。あらかじめ電話やメールで予約をしてもらい、見学希望日を決めて対応しています。その際、子どもたちの日常の様子を見てもらいたいので、午前中にしてほしいことを伝えています。なお、見学者が複数いた場合は、グループでの見学をお願いしています。とはいえ、あくまでも見学希望者の都合を優先しています。

## サブカテゴリ2

サービスの開始・終了時の対応

### 評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点 (000)

評価	標準項目
あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している

### 評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点 (0000)

評価	標準項目
あり	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している
あり	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
あり	4. サービスの終了時（就学を除く）には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている

## サブカテゴリ2の講評

次年度の入園説明会は7月と9月に行っています。説明会は、園内の施設見学と保育内容説明です。この入園説明会を開催するにあたっては、事前に園のホームページ、門前の掲示、区の広報紙、あるいは、近隣の公園内の掲示などを活用して周知してもらうようにしています。当日は、園長と主任が40分ずつ時間をとって説明をしています。その後、キンダーコース（幼稚園枠）は10月15日に願書を受け付け、11月1日に入園が決まります。ナーサリーコース（保育園枠）は11月に再度説明会を行い、12月上旬までに区に申し込み、2月に決定します。

入園後子どもたちの必要な情報は、キンダーコースは入園申し込み提出時に保護者アンケートをとって把握するようにしています。ナーサリーコースは、入園決定後に「発育状況調査票」「保育時間調査書」に記入していただき、それを基に面談しながら保護者の要望や意向などを聞きます。また、「健康カード」は入園前に提出していただいています。

保護者の都合で転園を余儀なくされる場合は、転園先が子どもや家庭の状況を知りたいという要請を受けることがあります。その際は、保護者の承諾を得た後、子どもの様子や状況を転園先にお知らせすることがあります。また、子どもの様子がどうなっているかを転園先に聞く場合もあります。いずれも子どもの成長に支障のないように支援の継続性を配慮していきたいという職員の願いからです。

### サブカテゴリ3

#### 計画の策定と着実な行動

#### 評価項目1

こども園としての教育課程・保育計画は、理念・基本方針に基づき策定されている

評点 (0000)

評価	標準項目
あり	1. 教育課程もしくは保育計画の策定にあたっては、全職員がかかわっている
あり	2. 教育・保育の基本方針や地域の実態を踏まえて策定している
あり	3. 就労状況など保護者の実情を考慮して策定している
あり	4. 教育課程もしくは保育計画は入園時や年度当初、改定時に保護者に説明している

#### 評価項目2

子供の発達や状況に応じた指導計画を策定している

評点 (0000)

評価	標準項目
あり	1. 年齢ごとに指導計画を作成している
あり	2. 子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っている
あり	3. 評価・改訂にあたっては、複数の職員が参画している
あり	4. 評価・改訂にあたっては、保護者の意向も反映している

#### サブカテゴリ3の講評

「教育・保育課程」は3年前に、当時の職員がたたき台を作り、職員全員が意見を出し合って作成したということです。そして、毎年、話し合っただけで加筆、修正をしてきました。今年度も話し合う予定です。現在の形はしっかり構築された「教育・保育課程」ですが、なお一層を望むとすれば、中核を形成する5領域の記述がやや散漫に感じられます。それぞれの領域のねらいは3つずつあります。そのねらいが必要十分に記述されているか、また、3～5歳児の年齢の整合性はとれているかなどについて、時間をかけて論議をする必要があります。

上記の「教育・保育課程」については、地域の実態を考慮したものになっています。例えば、育児相談事業、早朝保育や延長保育の実施、子育て家庭への施設機能の開放（園庭開放、体験保育、一時預かり保育など）が記載されています。このように、この地域の就労状況や地域の親子の実態などを把握して、おおもとの教育・保育課程に盛り込み、職員の意識づけをしています。なお、こども園の特性を保護者に十分理解していただくためにも、入園時に、園長から教育・保育課程の骨子を説明しておくことも必要でしょう。

当園は3～5歳児の子どもたちが在籍しています。従って、3～5歳児の年間指導計画、月間指導計画、週日案が年齢ごとに計画されています。これらは、4半期ごとに評価、見直しを行っており、改善点が見つかった場合は、柔軟に修正するようにしています。その際、園長、主任、担任の三者で話し合い、その結果を職員会議で他の職員に知らせるようにしています。年齢別の指導計画については、各年齢間の整合性がややとれていない面があります。今後は子どもの育ちをベースに年齢間に違和感がないように作成されることを期待します。

**サブカテゴリ4**

個別状況に応じた計画策定・記録

**評価項目1**

必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

**評点 (000)**

評価	標準項目
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

**評価項目2**

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

**評点 (000000)**

評価	標準項目
あり	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている
あり	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている
あり	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
あり	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
あり	5. 障害の特性を考慮した個別の指導計画を作成している
あり	6. 3歳児未満については、個別の計画を作成している ※ただし3～5歳児対象の園は非該当

**評価項目3**

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点 (OO)

評価	標準項目
あり	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
あり	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

**評価項目4**

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点 (OO)

評価	標準項目
あり	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
あり	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している

**サブカテゴリ4の講評**

当園では、運動会や発表会などの行事の際に、専門のカメラマンに撮影を依頼して写真を撮り、その後、希望者に頒布するようにしていました。しかし、保護者から、自分たちも取りたいという強い要望がありましたので、その要望を受け入れました。また、運動会は園庭で行っていましたが、近隣から騒音に対する苦情が多いので、小学校の校庭や体育館を借りて行うようにしました。これも保護者から園庭でやってほしいという要望がありましたがやむなくお断りしました。このように保護者の要望は尊重していますが、意に沿わない場合もあります。

今年は、東日本大震災の影響がいろいろな形で表れています。年間計画は年度当初に立てていますが、緊急に変わる場合のしくみについては、職員会議などで図っています。例えば、秋の恒例の「いもほり」は放射線を配慮して中止しました。また、保護者から要請のある給食の食材の産地の明示も実施しています。これらの変更や新たに加えることなどは、職員会議で決定されていますが、キンダーコース、ナーサリーコースと分かれていますので、これらの案件変更に関するしくみについては書面化しておくとの情報の共有がよりしっかりできるでしょう。

障がいを持つ子どもや配慮を要する子どもに対して、職員一人ひとりがフォローする体制を整えています。また、周囲の子どもたちも分け隔てなくふれあっています。障がいを持つ子どもに対しては個別の指導計画を立て専任の職員もいます。また、統合保育日誌もあります。ただ、日常の保育に関しては、特に、年長児の保育室はざわつきが感じられ、落ち着いた保育とは、やや異なる雰囲気です。園長や主任を交えて対策を講じられることを望みます。

サブカテゴリ5

サービスの実施

評価項目1

子どもの発達を促すための保育を行っている

評点 (000000)

評価	標準項目
あり	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している
あり	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている
あり	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している
あり	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている
あり	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している
あり	6. 異年齢保育を効果的に取り入れている

評価項目1の講評

子ども一人ひとりの状況をはじめ、各年齢ごとの発達段階など、常に職員間で確認しながら把握に努めています。さらには、遊びの内容や指導ひとつひとつが、その年齢や今の発達に合ったものかどうかを、振り返り話し合っています。今年度より、子ども主体の保育を目指し、大幅な保育環境および内容の見直しを行ってきました。好きな遊びにじっくり取り組むことで、自主性を身につけ、想像力や表現力を育てていきたいと考えています。少しずつですが、子どもの遊び方や、職員の意識が変わり始めたなどの成果が表れています。

評価項目2

幼稚園と保育園の機能が一体的に提供されている

評点 (0000)

評価	標準項目
あり	1. 幼稚園枠で入園した子どもと保育園枠で入園した子ども同士が、区別なく教育・保育を受ける工夫がされている
あり	2. 登園時間、降園時間の違いなどにかかわらず、集団としての教育・保育を実施している
あり	3. 幼稚園利用の保護者と保育園利用の保護者の交流に努めている
あり	4. 保護者の就労の有無や形態にかかわらず、それぞれの機能が必要に応じて提供されている

評価項目2の講評

キンダーコース（幼稚園機能）とナーサリーコース（保育園機能）を同じクラスで編成し、区別することなく同一のカリキュラムで教育・保育を行っています。キンダーコースの早朝と午後の預かり保育も、ナーサリーコースの子どもと同じように過ごしています。以前は、保護者向けにそれぞれの掲示板があり、合同保護者会のほかに機能別の保護者会もありました。現在はすべてにおいて同一で、統一した情報を提供しています。また、行事の際の手伝いを募り、それぞれのコースにとらわれない保護者同士のよい関係も生まれています。

評価項目3

適切な教育環境を整えている

評点 (00000000)

評価	標準項目
あり	1. 全身を使って活動する事ができる環境を整えている
あり	2. 人と関わる力が育つよう配慮している
あり	3. さまざまな活動や体験をするのに適切な環境を整えている
あり	4. 身近な自然や社会とかがわかる事ができるよう配慮している
あり	5. 伝え合う喜びを味わったり、言葉に対する感覚が養われたりするよう配慮している
あり	6. 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れられるような環境を工夫している
あり	7. さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分発揮させることができるような環境を整えている
あり	8. 日常の保育の中で、文字・言葉や数量・図形などが、遊びとして無理なく自然にとりいれている

評価項目3の講評

週1回、外部講師による体育指導を行っています。絵画や造形遊びなどは、全員で行うことにとらわれず、子どものやりたいときを大切にしています。興味関心を中断させないように、自由遊びの時間を多く取り、時に朝の会が給食直前になることもあります。訪問調査の日も、朝から3歳児が先日の発表会の経験をもとに、衣装を身につけ、遊びをさらに広げていました。このように、子ども主体の保育を展開しているため、5歳児クラスとしてはやや落ち着きがないように見受けられますが、帰りの会は集中して話しが聞けるよう十分に時間を取っています。

評価項目4

栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している

評点 (0000●) ・非該当1

評価	標準項目
あり	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている
あり	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している
あり	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している
あり	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている
なし	5. 適温給食を心がけている
	6. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている

非該当

評価項目4の講評

食事は栄養と量のバランスを考慮し、季節の素材を積極的に取り入れた、おいしい給食を提供しています。給食コメント表を活用しながら、各クラスの喫食状況を確認し、次回の献立に役立てています。食物アレルギーのある子どもには、個別に除去食で対応し、調理から配膳まで十分に注意を払っています。適温給食については、活動が長引くこともあるため、配膳時間に合わせながら、仕上がり時間を逆算して提供しています。しかし、人数が多いためどうしても冬場はスープ類が冷たくなりがちです。配膳方法や保温器活用などの、さらなる工夫を望みます。

評価項目5

子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている

評点 (0000)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している
あり	2. 乳幼児突然死症候群 (SIDS)、感染症等を予防をするしくみがある
あり	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している
あり	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群 (SIDS) 等に関する情報を提供し、予防に努めている

評価項目5の講評

子どもたちの健康面については、年間の「保健計画」に基づいて指導を行っています。年2回の内科健診、年1回の歯科検診、毎月の身体測定をそれぞれ実施し、その結果は「健康カード」で保護者に伝えます。また、毎月「保健だより」を発行して、感染症の予防や子どもの健康に関する季節ごとの注意点などを、保護者に呼びかけています。職員には保健会議の場で、保育中の子どもたちのうがい、手洗い、歯みがき指導の留意点や、そのほか必要事項を看護師が伝えています。看護師も園内を回りながら、子どもの指導にあたります。

評価項目6

園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている

評点 (000)

評価	標準項目
あり	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている (誕生会、季節の行事など)
あり	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている (清潔さ、採光、換気、照明等)
あり	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている

評価項目6の講評

園での生活がより楽しいものとなるよう、さまざまな年間行事を行っています。日常の保育では、好きな遊びを思いきり楽しめるよう、時間にとらわれず、遊びが途切れないような環境を大切にしています。職員はそれぞれのコーナーに付き、対応しています。子どもたちはいきいきとした表情で遊びに集中していますが、楽しい反面、友だちとのトラブルに発展することもあります。子どもは、そこから相手を思いやる気持ちや人のかかわりを学んでいきますが、けがにつながることも少なくありません。職員の動きや環境の設定など、さらなる工夫を望みます。



**評価項目7**

こども園と家庭との交流・連携を緊密に行っている

評点 (00000)

評価	標準項目
あり	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある
あり	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している
あり	3. 保護者の事情に応じて、柔軟な対応をしている
あり	4. 幼稚園利用の保護者、保育園利用の保護者がともに施設の行事などに参加しやすい工夫を行っている
あり	5. 保護者からの相談に応じる体制を整えている

**評価項目7の講評**

その日の活動については、キンダーコースの保護者には降園の際に口頭で伝えます。ナーサリーコースや預かり保育の保護者には、迎え時間が異なるので玄関に掲示して知らせます。また、6月の親子プレーデーでは子どもといっしょに遊ぶ機会を設け、そのほか親子行事や保育参観、個別面談もあります。しかし、キンダー、ナーサリー各コースの保護者、それぞれ求めているものが現状の保育内容と異なるようです。双方の理解を得るための、さらなる取り組みが必要でしょう。保護者会の持ち方を見直し、懇談会形式を取り入れるのもひとつの方法でしょう。

**評価項目8**

虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている

評点 (0000●)

評価	標準項目
あり	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
あり	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている
あり	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている
なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている

**評価項目8の講評**

虐待防止や育児困難家庭についての研修会に参加し、全職員で理解を深めています。参加した職員は研修報告を作成し、職員会議で報告を行います。報告書には職員の押印欄があり、全職員が確認するしくみになっており、報告した職員会議の日付も記録しています。虐待を発見したり、疑いのある子どもの情報が入った際には、外部機関と連携を図り、すぐに対応できる体制を整備しています。今後は、虐待の手引書や虐待チェックリストを作成することをおすすめします。また、保護者向けの子育てに関する勉強会を開催し、理解を深め合えると良いでしょう。

評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点 (000000)

評価	標準項目
あり	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している
あり	2. こども園の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける、地域の行事や園活動に参加できるように配慮する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している
あり	3. 地域の文化・レクリエーション施設等を利用している
あり	4. 他の園や福祉施設等との交流を図っている
あり	5. 地域の町会やボランティア団体、高齢者クラブ等の活動に子どもたちが参加できないか相談するなど、積極的な交流に向けて取り組んでいる
あり	6. 地域の人たちと接する機会（散歩・買い物等）に積極的に交流を図っている

評価項目9の講評

玄関には、区や地域の育児情報、保育園親の会連絡会の情報など、さまざまなパンフレットやチラシを設置し、子育てに関する情報を保護者に提供しています。また、町会の方々といっしょに会食をする給食会や、運動会、夕涼み会にご招待するなど、いろいろな形で子どもたちが外部の方々とふれあう機会を作っています。ほかに、地域の高齢者施設との交流もあります。散歩の際には、近隣の方と挨拶を交わしたり、商店街への買い物など、積極的に地域へ出かけています。姉妹園との交流では、初夏に5歳児が地引網を体験し、楽しい一日を過ごしました。

評価項目10

地域のニーズに対応した子育て支援事業を行っている

評点 (00000)

評価	標準項目
あり	1. 未就園児が親子で登園する日を設けている
あり	2. 在園児のほか地域の保護者から教育・保育に関する相談を受け入れている
あり	3. 保護者のニーズに対応した預かり保育を実施している
あり	4. 一時保育を実施している
あり	5. その他、多様な子育て支援事業を実施している

評価項目10の講評

さまざまな形で子育て支援事業を行い、こども園としての専門性を地域に生かしています。2歳以上の子どもを対象に、一日定員5名の一時保育「ばなな組」や、2、3歳を対象に親子で遊ぶ「いちご組」があります。いちご組は、月2、3回開催し、製作、リズム遊びや水遊びなどを行っています。それぞれに専任の職員が付き、計画を立て日誌も整備しています。訪問調査の日の「いちご組」は、ペットボトルを使ったおもちゃを親子で楽しく作っていました。ほかに園庭開放、講師による音楽会や体育遊びなども実施し、地域の子育て世帯に喜ばれています。

**評価項目11**

小学校との連携を行っている

評点 (0000)

評価	標準項目
あり	1. 小学校の教育内容について理解するための取組を行っている
あり	2. 卒園した子どもの情報を得るよう努めている
あり	3. 地域の小学校の行事への参加等、交流活動に取り組んでいる
あり	4. 認定こども園こども要録を適正に記録し、小学校に送っている

**評価項目11の講評**

運動会は近隣の小学校を借りて行っていますが、その際、校長、副校長と教育内容について話をする機会がありました。1月には小学校との交流会を計画しています。5歳児が小学校に出かけ、1年生と交流を持つ予定です。それ以前に、いっしょに交流会に参加する近隣保育園の5歳児と遊ぶ機会を持ちます。また、小学生の子どもを持つ保護者からも必要に応じて情報を集めています。今後も、小学校との連携を深め、卒園までに子どもたちに何を身につけていくことが必要か、情報を得ながら日々の保育に生かしていくことを期待します。

## サブカテゴリ6

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

### 評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点 (●○)

評価	標準項目
なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている

### 評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点 (○○○)

評価	標準項目
あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
あり	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
あり	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている

### 評価項目3

障害児を受け入れるにあたり、保育内容の配慮を行っている

評点 (○○○)

評価	標準項目
あり	1. 医療機関や専門機関と連携して、相談・指導・助言を得る体制がある
あり	2. 障害児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができている
あり	3. 障害児と障害のない子どもとのかかわりに配慮している

## サブカテゴリ6の講評

子どもの羞恥心については、具体的には、おもらしをした場合は他の子どもたちにわからないように処理したり、トイレ利用時にもカーテンをして見えないように配慮しています。また、職員が頭ごなしにみんなの前で叱るということもしていません。ただ、プール指導時に着替えは室内でしていますが、プールそのものは一部外から見えます。外部から見えないように対策を講じることを望みます。また、子どもの写真撮影及び掲示に関しては、入園時に説明し口頭で同意を得ていますが、今後は、保護者より同意書をとっておくことをおすすめします。

園長は、子どもへの対応として「心から子どもを愛し、分け隔てなくすべての子どもに優しく接する」ことを基本に、「子ども一人ひとりの個性、能力、特性を理解する」といった保育の心構えを職員の心得の中で述べています。また、子どもたち一人ひとりの発達を見極めて保育をしていくことの大事さを、ことあるごとに職員に語りかけ、啓発をしています。また、日常の保育を見回り、良かった点、ちょっとこうすれば良くなる点といった保育指導を行っています。

配慮を要する子どもがいる場合、園は区の「総合福祉センター」や「発達障がい療育センター」などの協力を得て、指導や助言を受ける態勢にしています。その際、事前にその子どもの様子を詳しく記載した配慮児童調査票を提出して実態を把握してもらいます。また、外部の研修を受講した職員が全職員に研修報告をして情報を共有するようにしています。

## サブカテゴリ7

### こども園業務の標準化

#### 評価項目1

手引書等を整備し、こども園業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点 (0000)

評価	標準項目
あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、園が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
あり	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
あり	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
あり	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している

#### 評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点 (000)

評価	標準項目
あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
あり	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる

#### 評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点 (00000)

評価	標準項目
あり	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
あり	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
あり	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている
あり	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
あり	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている

### サブカテゴリ7の講評

保育安全、保健、園内事故防止、衛生管理、感染防止など必要なマニュアルは完備されています。また、それぞれのマニュアルの中で、手順を必要とするもの、例えば、事故が起こったとき、感染症が発生したとき、虐待を発見したときなどについては、行動の流れが一目でわかるフローチャートもあります。また、「遊具点検表」「戸締りチェック表」「調理室チェック表」などのチェックリストもあります。ただ、「ヒヤリハットレポート」はありますが、チェックリストはありません。今後、室内、園庭、外出先に仕分けて作成されるとよいでしょう。

職員からの提案で「餅つき」の方法を変えることを現在企画しています。従来は、園庭で餅つきをしていましたが、安全、衛生の観点から子どもは直接参加はしていませんでした。しかし、職員は、子どもたちにもつきだてのおもちを丸めてもらおうと思っています。どのような形で子どもが参加できるか検討の真っ最中です。また、保護者からの要望では、写真を自由に撮れるよう要望があり、可能なかぎり対応しています。このように、職員や保護者の要望、提案を柔軟に取り入れて満足度を高めるようにしています。

園内のいろいろな出来事を職員全員が周知するように、定期的な会合をもっています。具体的には、職員会議、学年会議、週会議などです。それらの会議で各種情報の交換をしていますが、さらに、各担当が詳細に記述しているクラス日誌を毎日確認しています。クラス日誌には、付せんで園長のアドバイスが貼られていますので、職員はそのアドバイスを謙虚に受け止めています。現在、園長がこの4月から変わったことで、話し合いや相談をする機会が増えてきているとのことでした。今後も定期的に保育について話し合う機会を持つことを期待します。

<b>カテゴリ7</b> <b>情報の保護・共有</b>	
<b>サブカテゴリ1</b> 情報の保護・共有に取り組んでいる	
<b>評価項目1</b> ことども園が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
<b>評点 (000)</b>	
評価	標準項目
あり	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している
あり	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
<b>評価項目2</b> 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	
<b>評点 (0000)</b>	
評価	標準項目
あり	1. 園で扱っている個人情報の利用目的を明示している
あり	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している
あり	3. 開示請求に対する対応方法を明示している
あり	4. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取組を行っている
<b>カテゴリ7の講評</b>	
<p>個人情報の入った児童票は鍵のかかる書庫に保管しています。パソコンにはパスワードを設定し、アクセス制限を設けるとともに、使用していないときは施錠できる場所に収納するように徹底しています。また、データも園で一元管理しているので、パソコンにはデータが残っていません。また、保存期限の切れた書類はシュレッダーで廃棄処分しています。</p> <p>緊急連絡網に表示した電話番号は、災害時のみの使用に制限し、保護者に周知徹底しています。また、一括送信メールのアドレス登録も目的を明示しています。個人情報保護について職員への周知は、年度始めの職員会議で行っています。園外に子どもたちが出るときは、名札にガムテープをはって名まえを隠していますし、防災ずきんには名まえを書くときは、内側に書くなどして名まえが見えないようにしています。</p>	

## カテゴリ8

### カテゴリ1～7に関する活動成果

#### サブカテゴリ1

前年度と比べ、こども園の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

#### 評価項目1

#### 【活動成果】

前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリ1：「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリ2：「経営における社会的責任」
- ・カテゴリ4：「安全管理」



改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている



改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない



改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

#### 改善の成果

昨年度までは、どちらかという和一斉保育に重点を置いていましたので、クラス全員で一緒に活動することが多くありました。しかし、今年度新たに就任した園長の方針により、子ども中心の保育に切り替えました。子どもの自主性や主体性を大切にしたい保育です。それにより子どもたちの遊びが大幅に変わりました。保育室で遊ぶ、園庭で遊ぶ、子どもたちは自分で自由に遊びを選択するようになりました。職員もはじめは戸惑っていましたが、少しずつ受け入れています。昨年度より子どもたちの姿ものびのびして活動的になりました。

#### サブカテゴリ2

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

#### 評価項目1

#### 【活動成果】

前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリ5：「職員と組織の能力向上」



改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている



改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない



改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

#### 改善の成果

今年度は職員の育成に力を入れています。園では職員の研修参加を促し、職員が自ら学べる機会を増やしています。職員の自己評価表でも、研修会に参加する機会が増えたと歓迎する意見が見られます。実際、研修受講回数は昨年と比べて倍増しています。また、園長は職員と面談する機会を意図的に増やして、職員それぞれの能力や希望を把握するように努めています。また、外部のアドバイザーの先生による園内研修も毎月行っており、計画的な職員の育成に取り組んでいます。

### サブカテゴリ3

前年度と比べ、サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

#### 評価項目1

前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている  
・カテゴリ6：「サービス提供のプロセス」  
・カテゴリ7：「情報の保護・共有」

#### 【活動成果】



改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている



改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない



改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

#### 改善の成果

現在の園のカリキュラムは、子どもの年齢と発達に整合性がとれていません。現在、職員と研究を重ねて改善に努めていますが、成果は今後に期待しています。

### サブカテゴリ4

前年度と比べ、保護者の満足や意向の把握等の面で向上している

#### 評価項目1

前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている  
・カテゴリ3：「保護者の意向や地域・事業環境の把握と活用及び中長期目標と計画」

#### 【活動成果】



改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている



改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない



改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

#### 改善の成果

園長は子どもたちの安全を見守るため、朝、昼の登降園時には門に立って、子どもや保護者の姿を観察しています。こうした機会が、保護者との挨拶、そして会話になり、なんでも話し合える関係へと発展していきます。また、子育て支援活動の園庭開放の際も受け付けに入って、保護者との会話に努めています。こうして保護者とふれあう機会を増やしていくことで、保護者からさまざまな保育ニーズを収集したり、保護者の不安や心配に応えたりできるようになっています。